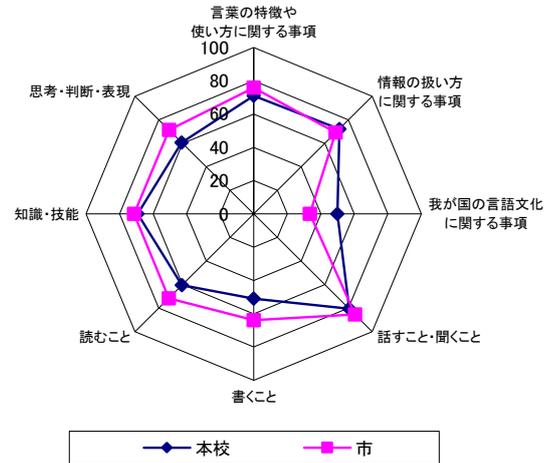


宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.0	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	72.2	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	50.0	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	80.6	85.5	86.5
	書くこと	50.9	63.9	65.8
	読むこと	60.6	71.6	69.5
観点別	知識・技能	69.2	71.3	72.9
	思考・判断・表現	60.7	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

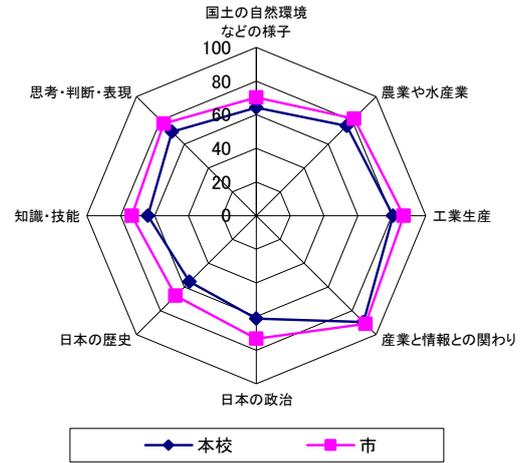
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>校内正答率は71.0%で、市より4.8ポイント低い。</p> <p>○三字の熟語の成り立ちについて理解している問題の正答率は75.0%で、市より7.8ポイント高い。</p> <p>●文と文との接続の関係を問う問題の正答率は25.0%で、市より18.2ポイント低い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字を読む、書くの学習については、今後もドリル等で繰り返し学習するよう継続して指導し、書き順や読みに加え、熟語なども合わせて確認させることで、漢字への意識を高め、漢字を使うことへの定着を図る。 作文指導や全学習活動における文章作成の機会を捉えて、文と文との関係に着目させ、接続詞の正誤への意識を高める。
情報の扱い方に関する事項	<p>校内正答率は72.2%で、市より3.1ポイント高い。</p> <p>○原因と結果など情報と情報との関係について理解している問題の正答率は72.2%で、市より3.1ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目的に合わせて情報を収集し、資料を関連付けながら読み取る活動を行ったり、読み取ったことをもとに考えを深める活動を行ったりすることで、思考力を高めていく。 他教科においても、情報を関連させて考えさせ、情報を整理したり短い言葉でまとめさせたりする活動を行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	<p>校内正答率は50.0%で、市より16.5ポイント高い。</p> <p>○語句の由来に関心を持ち、和語、漢語、外来語について理解している問題の正答率は50.0%で、市より16.5ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習では、新出漢字を読んだり書いたりする学習に留まらず、成り立ちや漢字のつくり、意味など、言語に対する理解を深めていけるようにする。
話すこと・聞くこと	<p>校内正答率は80.6%で、市より4.9ポイント低い。</p> <p>●意図に応じて質問を工夫する問題の正答率は80.6%で市より8.7ポイント、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える問題の正答率は66.7%で、市より3.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国語の授業や朝の会のスピーチ等において、相手の話から気になる点を見付けながら聞き、気になったことを更に質問する機会を設け、意図をもって聞く習慣をつけるようにしていく。 自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができるようになるために、聞き取ったことを端的にメモをすることをアドバイスするとともに、メモをする前に聞き取る観点を書いておくことを指導し、実践を繰り返すことで身に付けさせるようにする。
書くこと	<p>校内正答率は50.9%で、市より13ポイント低い。</p> <p>●目的や意図に応じて書くことを選び、伝えたいことを明確にする問題の正答率は50.0%で、市より14.1ポイント低い。</p> <p>●自分の意見とその理由を明確にして書く問題の正答率は66.7%、予想される反論とそれに対する意見を書く問題の正答率は33.3%でどちらも市より17.9ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く前にメモなどで情報を関連付けて書き出し、そこから目的に合わせて必要な内容を選んで文章を作る機会を作る。 自分の意見と理由を明確にし、予想される反対意見を自分で想定して書けるような題材を提示し、作文に書く機会を作る。 筋の通った意見文になっているか見分ける目を育てるために、互いに書いた作文を読み合う機会を設け、作文の筋が通っているか、改善点はどこかを考えさせるなど作文指導を充実させていく。
読むこと	<p>校内正答率は60.6%で、市より11ポイント低い。</p> <p>●物語と説明文の内容を読み取る問題の正答率は、全ての問題で市を下回った。</p> <p>●人物の心情について描写をもとに捉える問題の正答率は61.1%で、市よりも15.9ポイント低い。</p> <p>●文章全体の構成を捉える問題の正答率が66.7%で、市より10.2ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 物語文の学習では、重要な語句について話し合ったり、サイドラインを引いたりなどの作業を通し、本文の叙述に即して読むことで、登場人物の心情や様子を読み取らせる。 説明文の学習については、本文を読み取るときに情報と情報との関係を構造図に表すなどして、文章の情報を整理していくようにさせる。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	64.2	70.3	66.4
	農業や水産業	75.4	81.6	75.3
	工業生産	80.7	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	89.5	91.0	81.3
	日本の政治	61.2	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	55.6	67.4	68.5
	知識・技能	64.0	73.5	72.5
	思考・判断・表現	70.5	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

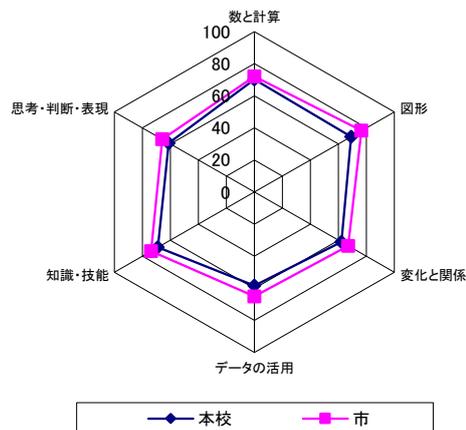
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>校内正答率は64.2%で、市より6.1ポイント低い。</p> <p>○季節風の特徴について答える問題の正答率は60.5%で、市より2.0ポイント高い。</p> <p>●赤道の名称を答える問題の正答率は44.7%で、市より23.1ポイント低い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・地図帳や地球儀、ICT機器を活用し、日本の主要な地形の名称や位置を確認したり、関連する地域の学習の際にはワークシートやドリルを活用して復習したりし、知識の定着を図る。</p>
農業や水産業	<p>校内正答率は75.4%で、市より6.2ポイント低い。</p> <p>●米の品種改良について答える問題の正答率は60.5%で、市より5.8ポイント低い。</p> <p>●水揚げされた魚の出荷作業における工夫の共通する目的について、資料から判断する問題の正答率は86.8%で、市より8.1ポイント低い。</p>	<p>・資料から共通する目的を読み取り、考察する力を育てるために、資料が示している内容を確認したり、自分の考えを説明したりまとめたりする活動を取り入れる。</p> <p>・日本の食料生産に関する地図や資料を活用し、自分の考えを説明したりまとめたりする活動を行い、表現することに慣れるようにする。</p>
工業生産	<p>校内正答率は80.7%で、市より6.3ポイント低い。</p> <p>○自動車の製造工程について、写真やメモが該当する場所を答える問題の正答率は89.5%で、市より0.9ポイント高い。</p> <p>●日本の輸出品目の変化の様子について答える問題の正答率は63.2%で、市より13.8ポイント低い。</p>	<p>・グラフや表などの資料から情報を読み取り、必要な事項を抜き出す活動や、気が付いた変化に着目し、考えを表現したりまとめたりする活動を取り入れる。</p> <p>・資料が示していることを端的にまとめることを通して、自動車工業の発展や人々の願いなどについて理解を深めていく。</p>
産業と情報との関わり	<p>校内正答率は89.5%で、市より1.5ポイント低い。</p> <p>●情報の発信と受信の注意点について考え答える問題の正答率は86.8%で、市より5.5ポイント低い。</p> <p>●情報を生かした産業について答える問題の正答率は92.1%で、市より1.0ポイント低い。</p>	<p>・著作権や個人情報の扱いについて、機会を捉えて、具体的な場面で説明をし、正しい認識をもち、情報化社会における正しい情報の受信、発信の仕方について継続して指導を行う。</p> <p>・産業における情報の活用方法について、理由を説明をしたり調べたことをまとめたりする活動を取り入れる。</p>
日本の政治	<p>校内正答率は61.2%で、市より9.5ポイント低い。</p> <p>●日本国憲法の原則である基本的人権の尊重について解答する問題の回答率は55.3%で、市より13.5ポイント低い。</p> <p>●法律ができるまでの流れについて資料を読み、回答する問題の正答率は63.2%で、市より12.7ポイント低い。</p>	<p>・租税教室や日常生活を活用し、税金の役割や仕組み、使われ方などについて理解を深められるようにする。</p> <p>・国会の仕組みや二院制の仕組みについて確認するとともに、資料から法律の成立までの流れを読み取ったり、必要な事項を抜き取ったりする活動を行い、理解を深める。</p>
日本の歴史	<p>校内正答率は55.6%で、市より6.8ポイント低い。</p> <p>●平安時代につくられた「かな文字」を答える問題の正答率は44.7%で、市より28.3ポイント低い。</p> <p>●刀狩を行った理由を答える問題の正答率は65.8%で、市より14.1ポイント低い。</p>	<p>・それぞれの時代の特徴や時代背景、つながりが理解できるよう、歴史的な事象や人物の業績について調べる活動を取り入れる。</p> <p>・年表や図表などを読み取ったり、新聞等にまとめたりする活動を積極的に取り入れる。また、歴史的な事象が起きた場所や理由などを確認し、理解を深める。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	70.2	72.1	74.6
	図形	69.1	76.5	76.1
	変化と関係	62.2	67.1	59.7
	データの活用	58.3	65.0	64.5
観点別	知識・技能	68.9	73.8	74.7
	思考・判断・表現	61.1	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

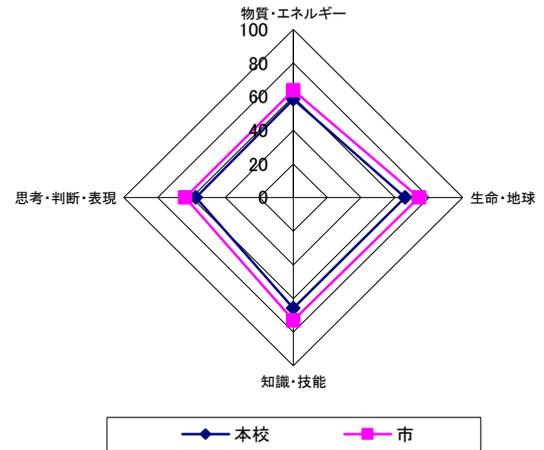
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>校内正答率は70.2%で、市より1.9ポイント低い。 ○分数のたし算の正答率は80.6%で、市より3.9ポイント、分数のかけ算の正答率は77.8%で、市より2.6ポイント高い。 ●分数のわり算の問題では、正答率が66.7%で、市と比べて3.5ポイント低い。 ●文字の式の問題では、2つの数量の関係を式に表す問題の正答率が61.1%で、市の平均と比べて4.3ポイント低い。また、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の正答率が63.9%で、市の平均と比べて6.3ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数のかけ算やわり算の計算が苦手だと考えられる。ドリル等を活用して、宿題や朝の学習等で継続的に指導し、基礎・基本の定着を図っていく。 ・文字の式を普通の授業で扱う際、教師から提示する例題を通して立式できるよう意識して指導していく。 ・ペア活動やグループ活動などを通して効果的な学び合いができるよう、学習形態の工夫をしながら考えを定着させるよう指導していく。 ・少人数指導や習熟度別の学習を通して、個別での指導を大切にしていく。
図形	<p>校内正答率は69.1%で、市より7.4ポイント低い。 ○点対称な図形の、対応する2つの点を結んだ直線の長さを求める問題の正答率は86.1%で、市より2.2ポイント高い。 ●正多角形の中から点対称な図形を選ぶ問題の正答率は58.3%で、市より21.9ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して、児童がより具体的に想像できるような授業を行うとともに、少人数指導や習熟度別の学習を通して、きめ細やかな指導を行っていく。 ・模型を活用し、実際に行う作業やグループでの学習などを充実させ、体験から学べるような指導を工夫していく。
変化と関係	<p>校内正答率は62.2%で、市より4.9ポイント低い。 ○単価が異なる物を買ったときの、1つあたりの値段を求める問題の正答率は61.1%で、市よりも5.0ポイント高い。 ●表から車両数と人数の割合を求め、どの路線が最も混んでいるかを考察する問題の正答率は55.6%で、市よりも13.8ポイント低い。 ●基準量と割合から、比較量を求める問題の正答率は50.0%で、市よりも8.7ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単位量あたりの大きさを比べるときは、どんな2つの量が関係するのか、どちらにそろえると比べられるのかを考えられるよう、継続して指導し、学習内容の定着を図っていく。 ・割合を求める場合は、問題文の中で、何が比較量や基準量を表しているのか判断の仕方を考えられるように、指導していく。 ・日常生活の中で割合を表しているものの具体例を提示し、実生活の中でも割合が関わっていることを指導していく。
データの活用	<p>校内正答率は58.3%で、市より6.7ポイント低い。 ○ドットプロットのデータを度数分布表に表す問題の正答率は88.9%で、市より3.2ポイント高い。 ●割合の円グラフを正しく読み取る問題の正答率は41.7%で、市よりも15.0ポイント低い。 ●ヒストグラムの特徴をもとに、平均付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する問題の正答率は25.0%で、市より10.5ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べたい事柄のためには、どんなデータが必要かを考えたり、身の回りのデータを多面的に読み取ったりできるようにする。 ・読み取ったデータからどんなことが分かるのかを自分の言葉で表現できるように、普通の授業でペア活動やグループ活動などを通して、自分の考えを説明し合う機会を意図的に増やしていく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	58.4	63.8	61.6
	生命・地球	66.0	74.1	73.3
観点別	知識・技能	65.8	73.0	71.3
	思考・判断・表現	57.5	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>本校正答率は58.4%で、市より5.4ポイント低い。</p> <p>○電磁石の利用方法から電磁石の性質を指摘する問題の正答率は、71.1%で市より5.5ポイント高い。</p> <p>○ものが水に溶けて透明になった液のことを「水よう液」ということを理解しているかの問題での正答率は73.7%で、3.8ポイント高い。</p> <p>●ふりこの周期の測定方法を理解しているかの問題の正答率は42.1%で、市より19.6ポイント低い。</p>	<p>・身近な事象や社会の中の具体例と理科の学習内容を結び付け、学んだ知識を活用して事象を説明し、理解を促すようにしていく。</p> <p>・実験結果として観察できる事象だけでなく、その背後にある目に見えない物質の存在や状態変化を、科学的な概念として捉えられるような指導を行う。</p>
生命・地球	<p>校内正答率は66.0%で、市より8.1ポイント低い。</p> <p>○川岸が削られるはたらきについての名称を答える問題の正答率は73.7%で、市より3.8ポイント高い。</p> <p>●食物連鎖における生き物同士の関係を問う問題の正答率は57.9%で、市より21.5ポイント低い。また、植物が養分をつくるために必要なことを問う問題の正答率は71.1%で、市より19.0ポイント低い。</p>	<p>・実験を全員が行うことで、実感を伴って理解した結果と考えられる。今後もモデル実験や観察を丁寧に行い、知識の定着を図る。</p> <p>・事象同士の関係や全体像を捉える力をはぐくむために、図やモデル、動画等を用いて関係性を可視化し、筋道立てて説明する活動を積極的に取り入れる。</p>

宇都宮市立上河内中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合いを通じた、コミュニケーション能力の向上	自分の考えをもたせるための支援の工夫と、自分の考えを表現する場の設定や学習形態の工夫	全学年対象の設問「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」に肯定的に回答した児童の割合が、4・5年生で市の平均を上回ったが他学年では市の平均を下回った。3～6年生対象の設問「自分の考えを、理由(根拠)をあげながら話すことができる」に肯定的に回答した児童の割合が、4年生を除いた学年で市の平均を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・4～6年生は、国・県・市の調査ともに、記述式設問の無回答率や条件を満たしていない記述の回答率が高い。自分の考えを根拠をもとに説明したり記述したりすることが苦手である傾向が見られる。次年度も、自分の考えをしっかりともち話し合い活動ができる児童を育成するための指導方法を研究していく。